ISSN 2758-7037

学校法人中越学園
長岡大学

2022年度

学生による
地域活性化プログラム
活動報告書

坂井一貴ゼミナール

石川英樹ゼミナール

鯉江康正ゼミナール

高島幸成ゼミナール

百合岡雅博ゼミナール

広田秀樹ゼミナール

權　五景ゼミナール

生島義英ゼミナール

喬　雪氷ゼミナール

栗井英大ゼミナール

2023年3月

長岡大学 学生による地域活性化プログラム
各プロジェクト報告書

1 キャンプ・アウトドアをキーワードにした地域活性化への取り組み
坂井一貴ゼミナール

2 まちの駅魅力再発見プロジェクト
鯉江康正ゼミナール

3 新潟のフードビジネスにチャレンジ
百合岡雅博ゼミナール

4 長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る
生島義英ゼミナール

5 栃尾地区の活性化にむけたブランディング事業
～地域資源PRとにぎわい創出への取組～
石川英樹ゼミナール

6 小学生のプログラミング教育を通した地域活性化活動
高島幸成ゼミナール

7 グラスルーツグローバリゼーション
ー草の根・地域からの人類一体化の推進ー
広田秀樹ゼミナール

8 着物で悠久山を盛り上げよう　～長大着物試着フェア～
喬　雪氷ゼミナール

9 動画で新潟を再発見！
權　五景ゼミナール

10 オープンファクトリーで長岡を活性化！
栗井英大ゼミナール

ごあいさつ

長岡大学 学長　村山光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、３、４年次の専門ゼミナールに所属する学生グループが、地域課題の解決や地域の魅力創出等に向けた調査研究と具体的な活動を行うことにより、学生の応用力及び社会人基礎力の向上と地域活性化への貢献を同時に目指す教育プログラムです。本プログラムは、2007(平成 19)年度に導入してからこれまで、継続しながら発展して参りましたが、最近ではプログラムの中心とも言える地域の現場での学生の様々な取り組みを新聞やテレビ、ラジオ等のメディアで取り上げていただく機会も増えてきました。また、これまでの本プログラムの運営にあたり、多大なるご支援やご協力をいただいてきた地域連携アドバイザーをはじめ地域の皆様からは、これらの取り組みに対する激励のお言葉をたくさんいただいております。長きにわたり本プログラムを続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えを述べることはなかなか難しいのですが、本プログラムでは、答えのない様々な地域課題に対して、その要因をどのように捉え、どのような行動を起こして対応していくのかを学生が自ら体験することになります。本学を卒業後には地域社会の一員となる学生たちが、将来の各職場や地域コミュニティにおいてもそれぞれの課題に取り組むであろうと考えると、これらは彼らにとって大変貴重な体験であると言えます。

本プログラムでは、各ゼミナールで設定したテーマの下で学生がグループで活動を進めていくことになりますが、時には活動を共にする学生間のちょっとしたすれ違いや地域の大人たちとの意見の食い違い等が起きることもあります。このような体験も学生がさらに一歩、人として成長するためのきっかけとなります。各グループで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者と協力しながら取り組みを進めていくべきなのか、グループ内での自分の役割は何か等を考えながら活動を行っていくことで、グループで活動することの難しさだけでなく、グループで目標に向かって物事をやり遂げることの充実感や達成感を味わうことができます。

「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域に飛び込み、地域の方々と一緒に汗をかき、楽しみ、そして考えることを通して、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていく事のできる人材の育成を目指しております。本学の建学の精神は、「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための中核となる教育プログラムであると言えます。

本活動報告書は、各取組テーマの調査研究活動の概要とその成果について学生が執筆した報告書を集めて一冊にまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。

2023 年 3 月

学生による地域活性化プログラム

2022年度　活動報告書

第Ⅰ部

学生による地域活性化プログラム
2022 年度　活動報告書　第Ⅰ部

目　　次

第１章　学生による地域活性化プログラムの概要 …… Ⅰ－1
　1.1　プログラムの位置づけ …… Ⅰ－1
　1.2　プログラムの概要 …… Ⅰ－1

第２章　2022 年度取組の経過 …… Ⅰ－3
　2.1　本年度取組の経過 …… Ⅰ－3
　2.2　2022年度の学生による地域活性化プログラム取組ゼミ …… Ⅰ－4
　2.3　2022年度の推進体制 …… Ⅰ－5

第３章　本取組における学生教育の評価 …… Ⅰ－6
　3.1　「学生による地域活性化プログラム」による学生の社会人基礎力の評価 …… Ⅰ－8
　3.2　ビジネス展開能力の評価 …… Ⅰ－11
　3.3　参加学生の地域理解度の評価 …… Ⅰ－14

第４章　取組結果のまとめ …… Ⅰ－16
　4.1　今後の課題 …… Ⅰ－16
　4.2　取組結果の概要 …… Ⅰ－17

参考資料
　1　2022年度学生による地域活性化プログラム成果発表会（次第） …… Ⅰ－27
　2　社会人基礎力診断シート（学生用） …… Ⅰ－28
　3　社会人基礎力診断シート（教員用） …… Ⅰ－29
　4　2022年度学生による地域活性化プログラム成果発表会【意見シート】 …… Ⅰ－30
　5　2022年度「学生による地域活性化プログラム」に関するアンケート調査 …… Ⅰ－31

第１章　学生による地域活性化プログラムの概要

1.1　プログラムの位置づけ

「学生による地域活性化プログラム」は、「平成19年度採択文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）学生による地域活性化提案プログラム－政策対応型専門人材の育成－（平成19年度～21年度）」（略して、地域活性化ＧＰ）を、継続的に行う取組である。当初の地域活性化ＧＰの「提案」にとどまらず、現在の「学生による地域活性化プログラム」は、具体的な行動を学生が行うことによって、学生の社会人基礎力の伸長を目指すものとして発展し、本学の最重要教育プロジェクトの一つとなっている。

当初の地域活性化ＧＰは、長岡市の総合計画を題材に地域活性化提案を行うものであったが、発展した「学生による地域活性化プログラム」は、地域全体の多様な課題を対象とした取組となっている。

1.2　プログラムの概要

(1) プログラムの内容

長岡市は三度にわたって11市町村で合併したが、新市として発展する上で様々な地域課題の解決に迫られてきた。人口減少問題など、地域の諸課題はますます深刻化、複雑化し、より独自の方向性での検討が期待されている。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、学生グループが長岡地域や新潟県の課題を対象に、実地に調査研究を行い、地域活性化方策の提案・地域活性化の実践を行うものである。これによって、学生の社会人基礎力、企画・提案力の伸長と地域活性化への意識の向上を、同時に実現することを目的とする。

本プログラムでは、①問題解決型教育＝体験・参加型教育の実践として、②長岡地域および新潟県内、またより一般的に地域の課題（環境、福祉、市民生活、産業等）をゼミナール（３年次，４年次）のテーマとしてとりあげ、③ゼミナールの学生グループがテーマごとに設けるアドバイザー（市担当者、関係団体の職員等）との緊密な連携と専門教員の指導の下に、④専門知識とスキルを応用してフィールド調査等の作業を行い、⑤地域活性化に貢献するとともに、その活動を広報し地域社会にフィードバックする。

(2) プログラムの趣旨・目的

長岡大学は地域の産業界のニーズに対応した「幅広い職業人」の育成を第一の使命としている。長岡大学の教育の基本は、社会人基礎力とビジネス展開能力（企画力、提案力）の育成、ビジネスの現場に直結した専門的な知識とスキルの習得にある。

本プログラムの趣旨は、長岡大学の教育の基本方針に沿って、産業界のニーズだけでなく、まちづくりや生活環境の改善など、地域社会の広範なニーズに貢献できる人材を育成することにある。地域社会が必要とする人材は、自分で判断し自分から果敢に行動できる実践力のある人材である。本プログラムは、学生をこのような人材に育てあげることを目的としている。

(3) 学生教育の目標、養成する人材像

本学は建学の精神を踏まえ、次に掲げる能力をディプロマポリシーとして、地域社会の発展に貢献できる自立した人材を育成する。

①地域社会に貢献する姿勢
②職業人として通用する能力
③専門的知識・技能を活用する能力
④コミュニケーション能力
⑤情報収集・分析力。

また、本学の基本理念に対応して、長岡大学改革宣言（平成16年10月発表）において、本学の教育の目標を次のように掲げた。

地域社会、地域の企業と連携し、地域の産業界のニーズに直結した長岡大学独自の「ビジネス能力開発プログラム」を展開し、ビジネスを発展させるための企画を立て、提案し、実行させる能力と人間力のある人財を創造する。

さらに、学生に対して「毎日の学生生活で充実感を、レベルアップを確認して達成感を、卒業のときに４年間を振り返って満足感を」実感してもらうことを約束している。

本プログラムは、上記のような本学の教育目標と学生に対するコミットメントを達成することと、本学の基本理念を具体的に実践することを目指した教育プログラムの一環である。

本プログラムは、産業界ばかりでなく、市民活動やＮＰＯ等の非営利的な活動も含めて、地域社会と連携し、地域の活性化に貢献できる実践力のある人材の育成を目指すものである。

(4) 設定する学生教育の目標と養成する人材像のニーズ

本取組における学生教育の目標は、
①社会人基礎力(アクション力・シンキング力・チームワーク力)の向上
②ビジネス展開能力（企画力・提案力・実行力）の向上
③専門的技法に関するスキルの向上
である。

専門的技法として学習するものは、情報・データ収集技法（情報検索、インターネット活用)、統計分析技法（統計の読み方、表計算ソフトの応用)、社会調査技法（アンケート、インタビュー)、レポート作成法、プレゼンテーション技法などである。

上記の能力と技法を身につけ、実際に地域の社会的問題に関わった学生は、地域社会が必要とする、自分で判断して行動できる実践力のある人材として、大いに期待されると考えている。

(5) 目標を達成するための教育プログラム

本プログラムは、3、4年次のゼミナールにおける問題・課題解決型教育（Problem-based Learning・Project-based Learning：PBL）＝体験・参加型教育の実践により、学生の企画・提案力の向上を図ろうとするものである。プログラムは大きく、

①実課題の設定（地域社会が実際に解決したいと考えている問題を理解した上で、取り組むべき実課題の設定を行う）

②参考になる情報やデータの収集（実課題に関係する調査報告、統計データ、論評、過去の経緯等を収集し要点を整理する）

③フィールド調査の実施（アンケート調査やヒアリング調査、市民活動への参加を通じて、市民や産業界が真に求める施策や地域が活性化するための方策を検討し実際に活動する）

④報告書の作成と発表（調査検討を通じて得られた知見をもとに報告書の作成を行うとともに、行政当局、市民団体、企業等の関係者、市民に対して活動報告を行う）

の4つのステップで構成される。課題の選択、活動の内容等によって具体的な方法は様々なものになる。

第2章　2022年度取組の経過

2.1　本年度取組の経過

2022年度の「学生による地域活性化プログラム」の主な実施経過は次のとおりである。

＜2022年度取組の経過＞

日付	内容
4月7 日（木）	2022年度第1回地域活性化プログラム運営部会開催
4月26日（火）	2022年度第2回地域活性化プログラム運営部会開催
5月31日（火）	2022年度第3回地域活性化プログラム運営部会開催
6月14日（火）	地域活性化プログラムの活動紹介パネルを展示（玄関エントランス、大学Webページ）
6月15日（水）	2022年度第1回地域活性化プログラム推進協議会開催
6月28日（火）	2022年度第4回地域活性化プログラム運営部会開催
7月26日（火）	2022年度第5回地域活性化プログラム運営部会開催
8月30日（火）	2022年度第6回地域活性化プログラム運営部会開催
9月17日（土）	大学祭「悠久祭」でゼミナールの活動紹介パネルを展示
10月 4日（火）	2022年度第7回地域活性化プログラム運営部会開催
10月11日（火）	生島ゼミ：中間レビュー
10月25日（火）	喬ゼミ：中間レビュー
10月25日（火）	高島ゼミ：中間レビュー

11月 1日（火）	權ゼミ：中間レビュー
11月 7日（月）	鯉江ゼミ：中間レビュー
11月 7日（月）	百合岡ゼミ：中間レビュー
11月 8日（火）	2022年度第８回地域活性化プログラム運営部会開催
11月15日（火）	石川ゼミ：中間レビュー
11月21日（月）	広田ゼミ：中間レビュー
11月22日（火）	栗井ゼミ：中間レビュー
11月22日（火）	坂井ゼミ：中間レビュー
11月29日（火）	2022年度第９回地域活性化プログラム運営部会開催
12月 3日（土）	2022年度地域活性化プログラム成果発表会開催 於：ホテルニューオータニ長岡　NCホール
12月14日（水）	2022年度第２回地域活性化プログラム推進協議会開催
12月27日（火）	2022年度第10回地域活性化プログラム運営部会開催
2月 2日（火）	2022年度第11回地域活性化プログラム運営部会開催
3月17日（金）	2022年度地域活性化プログラム活動報告書発行 （合冊並びに各取組10分冊）

2.2　2022 年度の学生による地域活性化プログラム取組ゼミ

本年度は 10 ゼミにより 10 取組が実施された。

＜取組ゼミとテーマ＞　　※成果発表会での発表順に掲載

	取組テーマ	ゼミ名
1	キャンプ・アウトドアをキーワードにした地域活性化への取り組み	坂井一貴ゼミ
2	まちの駅魅力再発見プロジェクト	鯉江康正ゼミ
3	新潟のフードビジネスにチャレンジ	百合岡雅博ゼミ
4	長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る	生島義英ゼミ
5	トチオノアカリ商品化によるにぎわい創出	石川英樹ゼミ
6	長岡市の小学生がプログラミングを継続的に学ぶための仕組み作り	高島幸成ゼミ
7	グラスルーツグローバリゼーション ―草の根・地域からの人類一体化の推進―	広田秀樹ゼミ
8	和服で悠久山を盛り上げよう　―長大着物試着フェア―	喬雪氷ゼミ
9	動画で新潟を再発見！	權五景ゼミ
10	オープンファクトリーで長岡を活性化！	栗井英大ゼミ

2.3　2022 年度の推進体制

2022年度の「学生による地域活性化プログラム」の推進体制は、次のとおりである。

＜総合アドバイザー＞　（敬称略）

所　　属	職　　名	氏　名
グローカルマーケティング株式会社	代表取締役	今井　進太郎
長岡市 地方創生推進部 政策企画課	課長	目黒　麻子

＜地域連携アドバイザー＞　（敬称略）

所　　属	職　名	氏　名
Green Philosophy	代表	大出　恭子
フェアトレードショップ　ら・なぷぅ	オーナー	若井　由佳子
全国まちの駅連絡協議会	関東甲信越運営幹事	久住　幸靖
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡	コーディネーター	須貝　友紀
デザイン事務所オオタケコウスケ	代表	大竹　幸輔
廃材アーティスト		加治　聖哉
株式会社長谷川陶器	代表取締役	長谷川　真
長岡市 観光・交流部 観光企画課	課長補佐	小林　隆
株式会社アルモ	代表取締役社長	柴木　樹
長岡市 商工部 産業支援課	工業振興担当課長補佐	五井　篤也
ミライ発酵本舗株式会社	統括マネージャー	平沢　政明
長岡市 観光・交流部 観光企画課	主査	廣瀬　修三
株式会社 鷲尾	代表取締役	鷲尾　達雄
新潟市立総合教育センター	指導主事	上野　昌弘
長岡商工会議所 営業サービスグループ	課長	瀧澤　学
株式会社新潟デリカ	代表取締役副社長	佐藤　敦
株式会社鶴亀社	代表取締役社長	小川　祐蔵
長岡市 教育委員会 学校教育課	副主幹兼指導主事	田中　博徳
ながおか技術教育支援機構（テソナ）	理事長	高橋　ゆたか

＜学内推進委員　ゼミナール担当教員＞

教　授	鯉江　康正
教　授	広田　秀樹
教　授	石川　英樹
教　授	權　　五景
教　授	栗井　英大

准教授	生島　義英
准教授	百合岡　雅博
准教授	坂井　一貴
専任講師	喬　　雪氷
専任講師	高島　幸成

第１回地域活性化プログラム推進協議会の様子

第３章　本取組における学生教育の評価

地域活性化プログラムにおける学生教育の目標は、

① 社会人基礎力（アクション力・シンキング力・チームワーク力）の向上

② ビジネス展開能力（企画力・提案力・実行力）の向上

③ 専門的技法に関するスキルの向上

である。

このうち最も重要な目標は、社会人基礎力の向上にある。社会人基礎力は、多様な個性をもった多数の人間で構成される「現実の社会」で、力強く生き抜くために必要な基本的能力である。

これから「現実の社会」で働き、生き抜いて行く必要がある若者が身に付けなければならない能力である。長岡大学は、学生の社会人基礎力を最大限伸長させることを重視し、あらゆる機会を通じて、学生の社会人基礎力向上に挑戦している。学生による地域活性化プログラムは、本学の社会人基礎力育成教育の支柱である。

社会人基礎力は、大別して、アクション力・シンキング力・チームワーク力で成り立つ。そして、この３つの能力は、さらに以下のような「サブレベル能力」で構成される。

＜社会人基礎力のサブレベル能力＞

アクション力	主体性・働きかけ力・実行力の３つ
チームワーク力	発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力の６つ
シンキング力	課題発見力・計画力・創造力の３つ

社会人基礎力はこのような「12 のサブレベル能力」で構成され、それぞれの能力を伸ばすことが、「社会人基礎力全体」を伸ばすことにつながる。

長岡大学は「参考資料 2」のような、「12 のサブレベル能力とは何か」、「サブレベル能力ごとに自分が今、どの程度の段階にあって、どのサブレベル能力を伸ばして行くべきか」を明確にした、長岡大学独自の「社会人基礎力評価シート」を開発し活用している。

この「社会人基礎力評価シート」は、「学生がイメージしやすいわかりやすい文章」でで

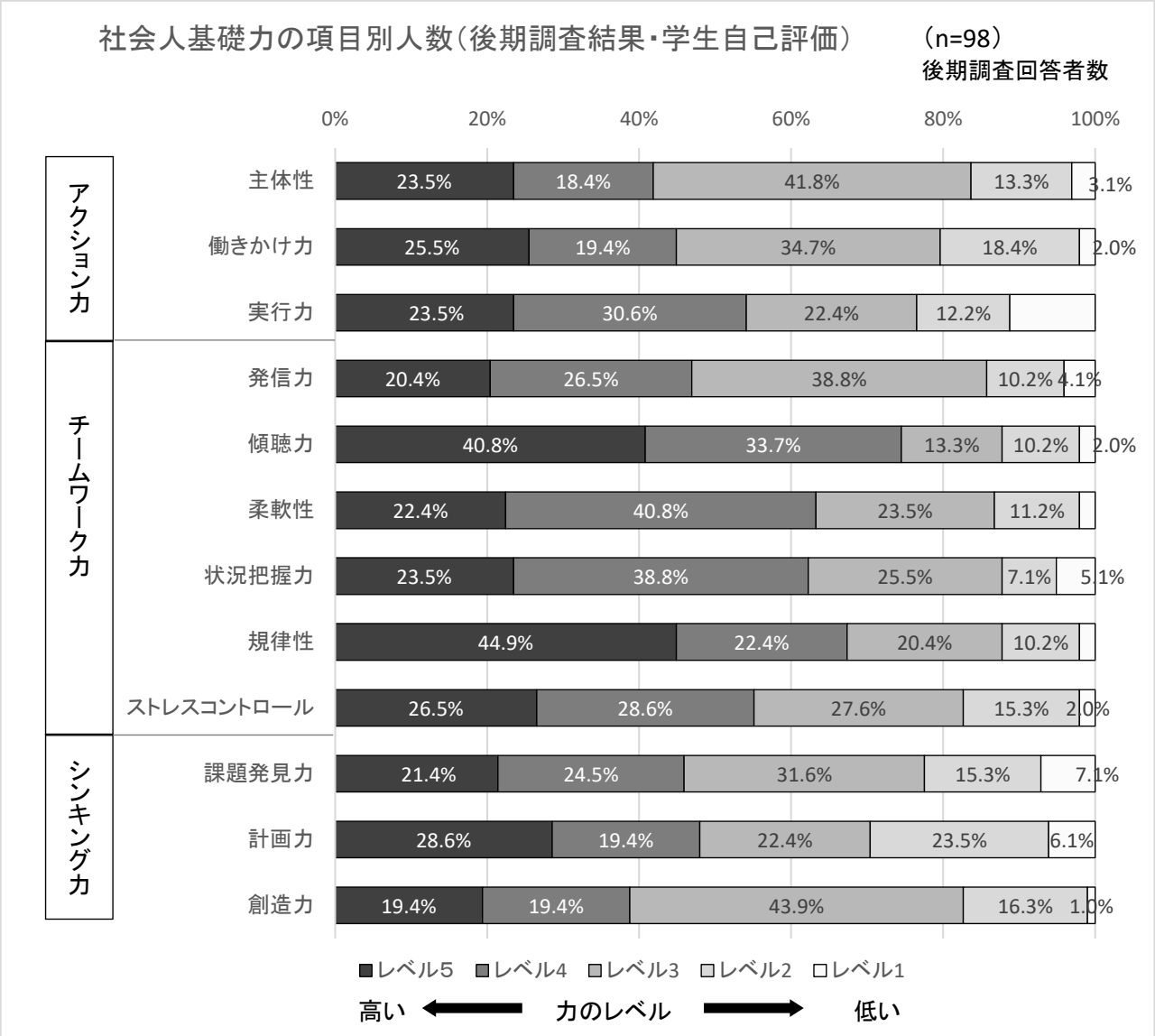
きている。このシートを活用した調査は、地域活性化プログラムの活動が始まる前期と、プログラムでの活動を経験した最終段階の後期の 2 回実施している。

学生による地域活性化プログラム成果発表会の様子

3.1「学生による地域活性化プログラム」による学生の社会人基礎力の評価

(1) 学生の自己評価

今年度の学生による地域活性化プログラムへの参加学生は、155 人であった。調査に回答した学生 89 名の中で、社会人基礎力の「前期調査の総得点」と「後期調査の総得点」を比較して、伸長した学生は 50 人であった。地域活性化プログラムに参加し、回答した学生の 56.2%が、社会人基礎力の何らかの領域で、確実に能力が伸長していると実感していることがわかる。



社会人基礎力シートの「12 のサブレベル能力」においては、5 段階評価の「3」が平均的水準である。後期調査結果時点で、「3」以上の数値をつける学生が、概ね 8 割前後になっている。地域活性化プログラムに参加した学生の大半は、社会人基礎力の「12 のサブレベル能力」の多数の領域で、明らかに力をつけているといえる。

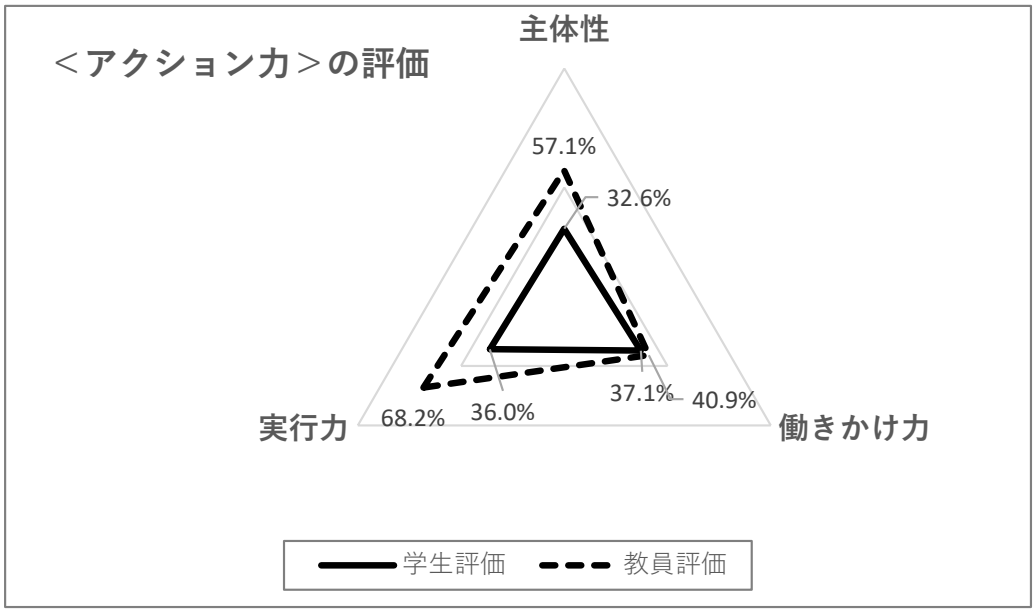
⑵ 3つの社会人基礎力の比較

社会人基礎力が伸びたかどうかについては、学生に「社会人基礎力診断シート（学生用）アンケート」（参考資料２）を前期始めと学年末に Web 方式で実施した。また、地域活性化プログラム運営部会の構成員であるゼミ担当教員には、「社会人基礎力診断シート（教員用）」（参考資料３）を学年末に実施した。学生は自己評価（有効回収数 89）であり、教員は各ゼミ学生についての評価である。

①アクション力

＜アクション力＞の評価（上昇した人の割合）

		学生評価	教員評価
主体性	進んで取り組む力	32.6%	57.1%
働きかけ力	他の人に働きかける力	37.1%	40.9%
実行力	取組みを確実に実行できる力	36.0%	68.2%

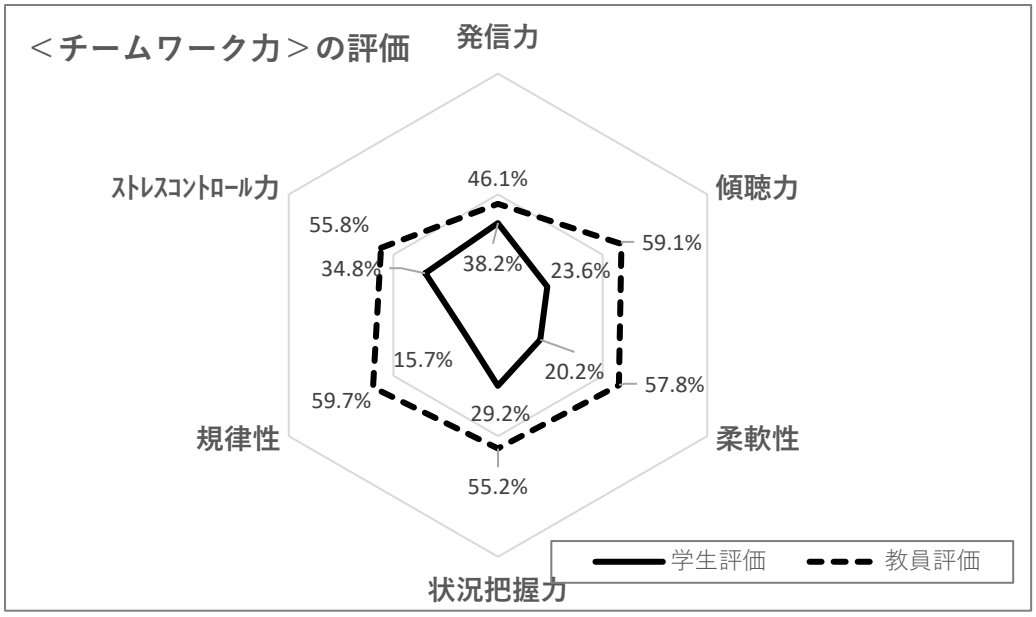


「アクション力」については、教員は４割から６割強の学生が伸びたと評価している。学生は３割強ほどが伸びたと実感している。

②チームワーク力

＜チームワーク力＞の評価（上昇した人の割合）

		学生評価	教員評価
発信力	自分の意見を相手に伝える力	38.2%	46.1%
傾聴力	相手の意見を聴く力	23.6%	59.1%
柔軟性	意見の違いなどを理解する力	20.2%	57.8%
状況把握力	周囲の人や物事との関係をよく理解する力	29.2%	55.2%
規律性	ルールや約束を守る力	15.7%	59.7%
ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	ストレスをうまく解消する力	34.8%	55.8%

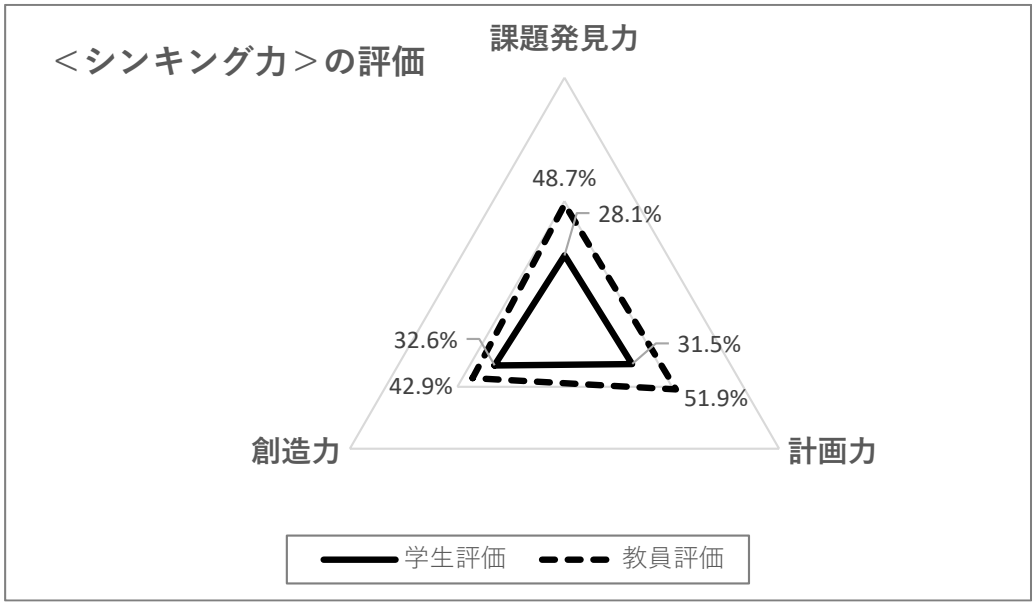


「チームワーク力」については、教員は概ね、4 割半～6 割の学生が伸びたと評価している。学生は 3 割程度が伸びたと実感しているが、規律性については 15.7%と評価が低い。

③シンキング力

＜シンキング力＞の評価（上昇した人の割合）

		学生評価	教員評価
課題発見力	課題を明らかにする力	28.1%	48.7%
計画力	課題解決の準備をする力	31.5%	51.9%
創造力	新しいアイデアを出す力	32.6%	42.9%

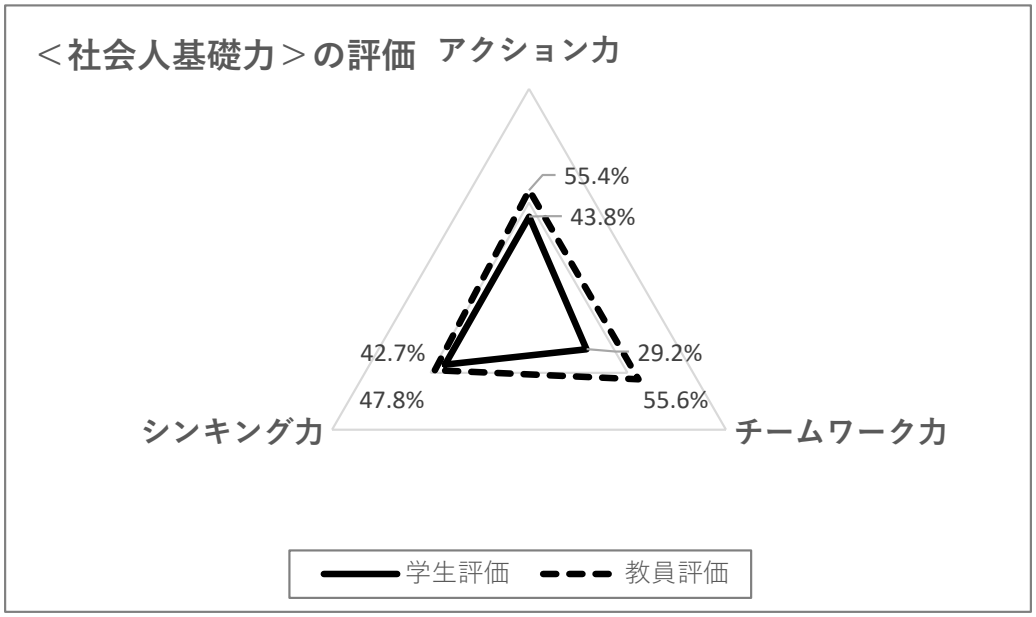


「シンキング力」に関しては、教員は 4 割から 5 割の学生が伸びたと評価している。学生は 3 割程度が伸びたと実感している。

④社会人基礎力の上昇度

＜社会人基礎力＞の上昇度

	学生評価	教員評価
アクション力	43.8%	55.4%
チームワーク力	29.2%	55.6%
シンキング力	42.7%	47.8%



「社会人基礎力の上昇度」については、教員は学生の「アクション力」と「チームワーク力」が伸びたと評価し、学生は「アクション力」が最も伸びたと実感している。

3.2　ビジネス展開能力の評価

ビジネス展開能力（企画、提案）については、成果発表会において、参加者（地域連携アドバイザー、発表学生の保護者、本学学生、本学教職員）から「地域活性化プログラム成果発表会意見シート」(参考資料 4) にて、取組の評価等をいただいた。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数を制限しての開催となった（一般参加者なし)。意見シートは 231 名に対して 172 名回収できた。回収率は 74.4%である。当日は 10 取組の発表がなされた。

(1) 取組テーマ（タイトル）と内容の合致

取組テーマ（タイトル）と内容の合致については、「合致していた」との回答が全体で 92.3%であった。概ね評価されたのではないか。しかし、今後活動を進めるなかで活動の範囲や方向性が変わっていく可能性もあることから、この点は引き続き担当教員が指導していくことが望まれる。

Q1　取組テーマ（タイトル）と内容は合致していましたか。

		合致していた	あまり合致していない	合致していなかった	小計
実数（人）	アドバイザー14人	113	24	1	138
	保護者20人	131	5	0	136
	学生120人	1,115	67	12	1,194
	教職員18人	156	16	1	173
	合計172人	1,515	112	14	1,641
構成比（%）	アドバイザー14人	81.9%	17.4%	0.7%	100.0%
	保護者20人	96.3%	3.7%	0.0%	100.0%
	学生120人	93.4%	5.6%	1.0%	100.0%
	教職員18人	90.2%	9.2%	0.6%	100.0%
	合計172人	92.3%	6.8%	0.9%	100.0%

(2) 取組は地域活性化に役立つ

各取組の地域活性化については、「役立つ」という回答は、全体で 76.7%であった。しかし、アドバイザーは 73.9%、教職員は 56.0%と学生と比較するとやや低い結果となった。再度、大学内における方向性の確認、意識統一が必要ではないか。

Q2　この取組は地域活性化に役立つと思いますか。

		役立つ	どちらともいえない	役立たない	小計
実数（人）	アドバイザー14人	102	32	4	138
	保護者20人	115	20	0	135
	学生120人	942	213	36	1,191
	教職員18人	98	73	4	175
	合計172人	1,257	338	44	1,639
構成比（%）	アドバイザー14人	73.9%	23.2%	2.9%	100.0%
	保護者20人	85.2%	14.8%	0.0%	100.0%
	学生120人	79.1%	17.9%	3.0%	100.0%
	教職員18人	56.0%	41.7%	2.3%	100.0%
	合計172人	76.7%	20.6%	2.7%	100.0%

(3) 取組の評価

取組の評価については、「高く評価できる」が 63.0%であった。また、「評価できる」まで加えると 93.5%で、昨年同様、それなりに取組が評価されていることがわかる。本学学生をみると両者の合計は 94.0%である。今後もシンポジウム等への参加機会や地域との交流機会、学生間の交流機会を増やし、学生の洞察力や興味を高め取組のレベルを上げ、結

果として学生の社会人基礎力、ビジネス展開能力を伸長させることが必要であると思われる。

Q3　学生の取組として評価できると思いますか。

		高く評価できる	評価できる	やや物足りない	あまり評価できない	小計
実数（人）	アドバイザー14人	42	78	17	1	138
	保護者20人	78	56	3	0	137
	学生120人	805	314	56	16	1,191
	教職員18人	928	449	76	21	1,474
	合計172人	1,853	897	152	38	2,940
構成比（%）	アドバイザー14人	30.4%	56.5%	12.3%	0.7%	100.0%
	保護者20人	56.9%	40.9%	2.2%	0.0%	100.0%
	学生120人	67.6%	26.4%	4.7%	1.3%	100.0%
	教職員18人	63.0%	30.5%	5.2%	1.4%	100.0%
	合計172人	63.0%	30.5%	5.2%	1.3%	100.0%

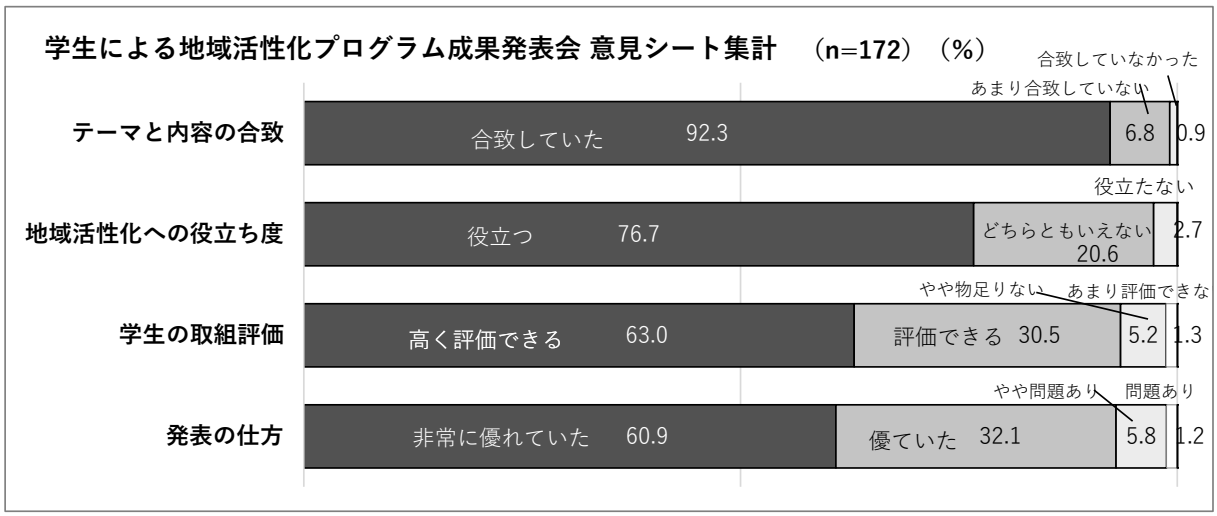
(4) 発表の仕方

発表については、「非常に優れていた」が 60.9%、「優れていた」が 32.1%で、合計で、9 割ほどとなる。このプログラム自体は、長期の伝統を形成しているが、一方で「実際に発表する学生」はほぼ毎年変わる。つまり、壇上で多くの方々の前で発表することが、初めての経験という学生が大半となる。それでも、各ゼミの活動が年々成熟度を増し、先輩から後輩に受け継がれる発表スキルの蓄積が増し、レベルが年々高まっていると考える。

Q4　発表の仕方についてどう感じましたか。

		非常に優れていた	優れていた	やや問題あり	問題あり	小計
実数（人）	アドバイザー14人	2,784	1,348	228	59	4,419
	保護者20人	44	81	9	0	134
	学生120人	735	366	79	10	1,190
	教職員18人	40	103	26	3	172
	合計172人	3,603	1,898	342	72	5,915
構成比（%）	アドバイザー14人	63.0%	30.5%	5.2%	1.3%	100.0%
	保護者20人	32.8%	60.4%	6.7%	0.0%	100.0%
	学生120人	61.8%	30.8%	6.6%	0.8%	100.0%
	教職員18人	23.3%	59.9%	15.1%	1.7%	100.0%
	合計172人	60.9%	32.1%	5.8%	1.2%	100.0%

「地域活性化プログラム成果発表会意見シート」集計グラフ



3.3　参加学生の地域理解度の評価

本プログラムは成果指標として参加学生の地域への理解度向上を評価するため、地域活性化プログラムに関するアンケート（参考資料 5）を実施した（地域活性化プログラム参加学生数 155 名、回答者数 95 名）。

問 1. 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行った後、地域への理解が高まりましたか。

回答項目	人数	割合
高まった	88 人	92.6%
どちらともいえない	6 人	6.3%
高まっていない	1 人	1.1%
合計	95 人	100.0%

「地域への理解が高まった」と回答した学生が、92.6%であった。9 割の学生が、自分が生きている地域について、あらためて新鮮な発見をし、可能性、潜在力を実感した。学生による地域活性化プログラムは、「地域理解教育」としての重要な機能があることがわかる。

問 2. 地域活性化プログラムの取り組みは、地域の活性化に役立ったと思いますか。

回答項目	人数	割合
役立った	81 人	85.3%
どちらともいえない	14 人	14.7%
役立っていない	0 人	0.0%
合計	95 人	100.0%

「地域の活性化に役立った」と回答した学生が、85.3%であった。8 割以上の学生が、地域活性化プログラムが、多様な視点で、地域の創生、発展、そこに生きる人々の幸福に寄与する取り組みであると実感してくれたものと考える。

いつの時代も、若者の内面には、他者の幸福への貢献、地域への貢献、時代開拓への貢献といった「純粋な使命感、正義感」がある。その崇高な思い、意志が、若者特有の圧倒的な体力、行動力、創造力、冒険心、飛躍性と連動して、それが地域に展開されることが理想である。

問 3. 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなた自身の社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。

回答項目	人数	割合
上昇した	87 人	91.6%
どちらともいえない	7 人	7.4%
上昇していない	1 人	1.1%
合計	95 人	100.0%

「社会人基礎力は上昇した」と回答した学生は、91.6%で、「どちらともいえない」と回答した学生は、7.4%であった。

90%以上の学生が社会人基礎力の伸長を実感しているのは、素晴らしいことである。一方で 1 割未満であるが、少数の学生は社会人基礎力の明確な伸長を実感していない。近年、プログラムに参加する学生数が多く、プログラム進行上、「中心となって活躍する学生のグループ」と「何らかの理由であまり活躍しない、ないしできない学生のグループ」に分離する実情もある。今後は一人残らず参加学生全員が、自分の使命を実感し全員がお互いを励ましあいプログラムを進める、「全員参加型・全員相互励まし型」、All for One, One for All という伝統をつくって行くことが重要である。

問 4. 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなた以外の他のメンバーを総合的に見て社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。

回答項目	人数	割合
ほぼ全員が上昇した	62 人	65.3%
上昇した学生と上昇していない学生が半々位	32 人	33.7%
上昇していない学生が多い	1 人	1.1%
合計	95 人	100.0%

「ほぼ全員が上昇した」と回答した学生が、65.3%である。一方、「上昇した学生と上昇していない学生が半々位」が、33.7%であった。「プログラムの取り組みの勢いに乗り遅れ、成長しきれない学生」の存在があるものと考える。だからこそ「全員参加型・全員相互励まし型」、All for One, One for All のプログラム運営を、推進することが今後の目標になってくる。

第 4 章　取組結果のまとめ

2022年度長岡大学「学生による地域活性化プログラム」のまとめとして、今後の課題について整理しておきたい。なお、各取組の詳細な内容は「第Ⅱ部　学生による活動報告」を参照。

4.1　今後の課題

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は長きに渡って、学生の社会人基礎力を最大限伸長させる本学の教育プログラムの支柱になってきた。

近年のコロナパンデミックの深刻な状況下でも、本学の活力に満ちた勇気ある多くの学生は、行動制限等の壁がある中ですら、「学生による地域活性化プログラム」を力強く推進している。

一般的に人口構造の激変を背景に、日本の地域は異次元の困難な段階にある。地域での「内発的協力」こそが、持続的に地域社会を支え安定させるために最も重要である。地域の「内発的協力」を高めるため、地域の中で高い社会人基礎力をもった若い人材が育成され地域で活躍して行く潮流を、創造することこそ最も大切である。

若き人材が身に付けるべき能力は複数ある。幅広い豊かな教養、高度な専門知識、高度な思考力といった、伝統的に大学が伝授してきたアカデミックな要素も必要であり、長岡大学はそれらを徹底して高める教育も十分提供している。学生の知的水準は飛躍的に伸長し高くなっている。

しかし、現代の若者は、幼少の頃から、スマートフォン、ゲーム機器といった、「一人で充実できる環境」の中で育ち、「対人力・対話力・組織人としての能力」といった、「激動・激変する社会・組織」の中で、たくましく野性的に生き抜くための基本能力が、十分つかない傾向にあるという見方もできる。20 年、30 年前にそれらの能力を、大半の若者が成長過程で自然に身に付けていた時代と、現代は全く違う。

現代の若者も生き抜くため、多様な個性をもった人間群の嵐の中で働き、所得を得ていかなければならない。そのため、従来の大学が提供していたアカデミックな学修のみでは、不十分である。この一点を、最も早く認識し「学生による地域活性化プログラム」という、学生に地域での「体当たりの体験学習」を提供する教育手法を導入し軌道に乗せたのが、長岡大学である。

「学生による地域活性化プログラム」に参加した多くの学生は、現実の地域に生きる人間の中に飛び込み、悪戦苦闘する中で、社会人基礎力を確実に身につけている。予想外の事態が何度もおき、面くらい驚き、それでも立ち上がり前進を続け、見事にプログラムを成し遂げ、その結果として、社会人基礎力を飛躍的に伸ばした学生の姿を、本年度も多くみた。社会人基礎力を鍛えるため、絶大な体験学習の場を踏めるのが、「学生による地域活性化プログラム」である。

今後も体当たりで地域に飛び込み、チャレンジし、現実に大成長する学生の成長ドラマを着実に増やして行きたい。

4.2　取組結果の概要

以下、本年度の取組結果の概要をパネルで紹介して、第Ⅰ部のまとめとしたい。

学校法人 中越学園
長岡大学

2022 年度 学生による地域活性化プログラム

坂井一貴
ゼミナール

キャンプ・アウトドアをキーワードにした地域活性化への取り組み

【参加学生】　3 名(4 年生 2 名、3 年生 1 名)

4 年生　佐藤大来、種部一真
3 年生　天筒樹生

【アドバイザー】

長岡商工会議所 営業サービスグループ　課長　瀧澤学 氏

本ゼミナールの「地域活性化」の定義と好循環への段階

01　新潟県の
　キャンプやアウトドアの魅力を伝える情報発信

02　新潟県内でキャンプをする人たちの増加
　（経済的な観点から可能な限り県外からのキャンプ客増を狙う）

03　キャンプ客の
　新潟県産の食材やキャンプ製品の消費の拡大

04　地域の企業や生産者の
　収益や雇用拡大による地域活性化

2022 年度の主な活動

上記で示した好循環への第 1，第 2 段階を実現するため，2022 年度は以下の活動を中心に実施した．

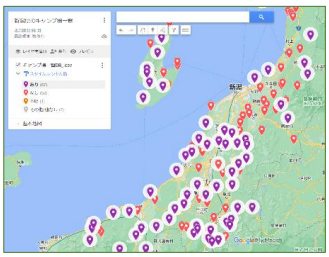
01　【継続】Instagram や Twitter などの
　SNS を用いた PR 活動

02　【新規】長岡地域振興局 等との協働
　地域イベントへの参加，アンケート調査・分析

03　【新規】Google マイマップ機能を用いた
　新潟県内のキャンプ施設の可視化

参加イベント：ソトアソビ・ソトゴハン in 東山

参加イベントでの受付


作成した Google マイマップの例

鯉江康正ゼミナール

まちの駅魅力再発見プロジェクト

【参加学生】 14 名(4 年生 10 名、3 年生 4 名)

4 年生 内山葵、尾身萌々花、小林桃香、柴野奏人
高島元輝、長原史拓、星美紀、山井良海
吉田和弥、Ochirpurev Ariunjargal

3 年生 荒木しおり、泉龍嗣、猪飼海音、佐藤里菜

【アドバイザー】

まちの駅ネットワークみつけ 代表 久住幸靖 氏
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡コーディネーター 須貝友紀 氏

1．活動目標

昨年度実施した『まちの駅のあり方に関するアンケート調査』結果から、「まちの駅の認知度が低い」「まちの駅間の交流や情報交換の不足」という課題が明らかとなった。それを克服すべく、今年度のテーマを実現するための活動目標と取組は以下の２つである。

活動目標１：認知度向上を目指す「まちの駅情報発信プロジェクト」
活動目標２：連携機能の強化を図る「まちの駅交流プロジェクト」

2．活動目標１の成果

「まちの駅情報発信プロジェクト」として、

① まちの駅定義パネルの作成
② まちの駅ネットワークみつけを対象としたモザイクアート、自慢パネルの作成
③ まちの駅パネルの制作とパネル展の実施
④ ホームページ・Instagram・PV 動画の作成

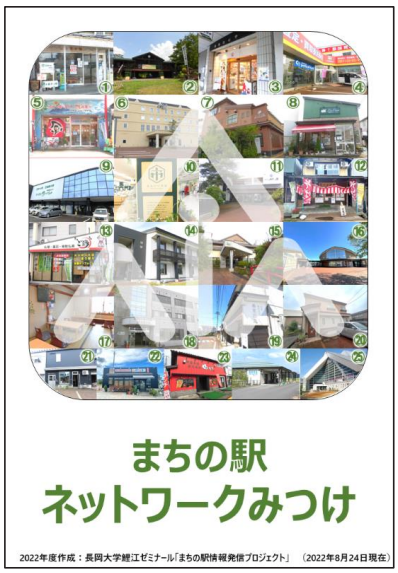
を行い、まちの駅そのものの認知度向上と、まちの駅１駅１駅の認知度向上を図った。

3．活動目標２の成果

「まちの駅交流プロジェクト」として、

① 魅力あるまちの駅のリレー紹介
② 各種まちの駅イベント（まちの駅めぐり、トチオーレ秋あじまつり、まちの駅全国大会）への参加

を通じて、他のまちの駅を知るお手伝いと交流の土台作りを図った。



百合岡雅博ゼミナール 新潟のフードビジネスにチャレンジ

【参加学生】 14 名(4 年生 12 名、3 年生 2 名)

4 年生 池山宥斗、石田優斗、杵渕恭佑、齋藤涼馬、佐藤健
土居稜宗、外山真衣、二國楓加、野村真子
早津マリア蓮、諸橋悠真、渡辺航平

3 年生 阿部萌里、岡村留那

【アドバイザー】

株式会社 鷲尾 代表取締役 鷲尾達雄 氏
新潟市立総合教育センター 指導主事 上野昌弘 氏

醤油を対象に「長岡らしさ」をテーマにした、学生ならではの目線で商品開発と販路開拓のマーケティングプロセスに取り組むなかで解決策を示すことで地域の醤油産業へ貢献することを目的とし、図 1 に示した商品開発の流れを基本に取り組みを行う。

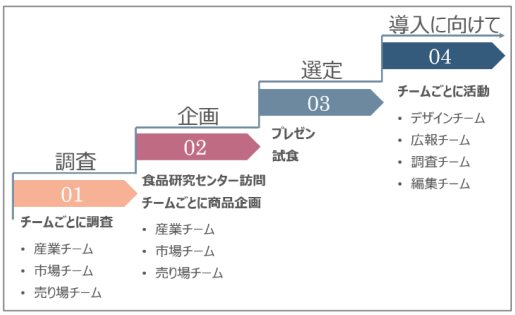


図 1 商品開発の流れ

調査においては、ゼミナールのメンバーが産業チーム・市場チーム・売り場チームの三つに分かれ、産業チームは醤油、調味料産業、市場チームは消費者・競合メーカーとの比較、売り場チームは醤油の流通を主な対象に、それぞれの視点で調査を実施したうえで、商品開発における問題点を明らかにする。

企画においては、調査結果をもとに商品開発における重要項目として、①味以外の価値をつけること、②長岡ならではのもの、③インパクトがあるもの、④低容量でしっかり味の感じられるものの 4 つの要素を抽出し、これをもとに各チームで 8 つの商品アイデア企画し、株式会社ホクショクさまにプレゼンテーションを実施する。そのなかから商品を試作する段階に入る。3 回の試作を繰り返し、製造する商品を選定する。

導入に向けては、選定した商品の販売にあたり、チームを再編成し名称やラベル、容器の選定、生姜醤油を周知するための活動、選定した生姜醤油は市場ニーズと合致しているか確認を行う。

商品名やラベルなどはデザインチームが実施し、Web や SNS などでの情報発信とそのためのコンテンツ制作は広報チームが実施する。

図 2 商品デザイン

図 3 SNS PR チラシ

図 2 は完成した商品デザイン、図 3 は広報チームが作成した Instagram を周知するためデザインチームが制作したチラシである。

開発した商品の消費者ニーズなどを把握・分析する調査チームでは、学内と土産品を販売するぽんしゅ館長岡驛店で調査を実施、消費者の認知度はじめ、生姜醤油の認知度など広報に必要な情報収集を行う。

図 4 試飲会の様子

なかでも、消費者の目に留まるか、手に取ってもらえるかなどマーケティングの重要性を強く認識した取り組みを行う。アドバイザーからは、消費者と向き合うことでニーズを的確に把握し、そこに合わせたプロモーションを展開していくことの重要性、そして、自分たちで売るという意識を持つことが商品への熱量が増し、プレゼンテーションの質が変わるといったコメントを受ける。

生島義英ゼミナール

長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る

【参加学生】　15 名(4 年生 4 名、3 年生 11 名)
4 年生　青山竜也、佐藤将貴、髙橋那優、平山瑠伽
3 年生　青木大知、石坂純、宇田脩瑛、岡村悠太、加藤悠大
髙木翔梧、高木大海、八重尾光頼、山﨑康行
山本瑞樹、里麻永空

【アドバイザー】
ミライ発酵本舗株式会社　統括マネージャー　平沢政明 氏
長岡市 観光・交流部 観光企画課　主査　廣瀬修三 氏

【デザイン思考の学修】

問題解決するための思考方法として「デザイン思考」をゼミナールとして取り組んだ。

デザイン思考とは,「正しくニーズ、課題を見つけ、解決に導くためのクリエイティブな考え方」である。この思考方法を活用して摂田屋の課題に取組む。

【問題の把握と解決法の検討】

現状の問題点は 2 つある。

1．摂田屋は酒や醤油、味噌などが盛んな地域だが、知名度がまだ低く、全国的にも県内においてもあまり知られていない。

2．若者は摂田屋に対して興味が薄く、そこまで魅力を感じていない。

この問題を解決するために以下の 3 つのプロジェクトを立ち上げ，行動した。

1. 情報発信プロジェクト
2. 商品開発プロジェクト
3. イベントプロジェクト

【情報発信プロジェクト】

インスタグラムで今年度、6 件の記事を投稿した。

また、今年度はフォロワーを増やすために個人をフォローしてみた。その結果、フォロワーが 64 人⇒422 人に増えた。

【商品開発プロジェクト】

商品コンセプトは、「フレンチトースト」×「みそ・しょうゆ」×「自分たちで作れるもの」の掛け合わせで商品開発を行った。

実際に商品開発した商品を長岡大学の悠久祭で販売した。悠久祭では、2 日間合計で 140 食販売することができた。

【イベントプロジェクト】

10 月 30 日(日)、「HAKKO trip」にて小学生向けのワークショップを行った。内容は、「サフラン酒の鏝絵をモチーフにしたストラップづくり」である。

【結論】

情報発信プロジェクトでは、自主的にフォローを行い、ダイレクトメッセージを送ったことで、昨年度よりフォロワー数が急激に増加した。

商品開発プロジェクトでは、摂田屋の名物である醤油と味噌を使ったフレンチトーストを製作し、多くの人から美味しいと言っていただけた。

イベントプロジェクトでは、子どもから大人まで参加していただいて、HAKKO trip のワークショップで 80 人以上の参加者が得られた。

よって、今回の取り組みは摂田屋の地域活性化に貢献出来たと考える。

長岡大学　　2022 年度 学生による地域活性化プログラム

石川英樹ゼミナール

栃尾地区活性化にむけたブランディング事業

【参加学生】 20 名(4 年生 8 名、3 年生 12 名)

4 年生　磯部直樹、今井諒、上村月乃、鈴木颯太
野澤侑我、星野宇宙、諸橋涼、山本まりあ

3 年生　浅田篤郎、阿部里奈、池浦颯士郎、金子竜久
川崎太暉、木伏渉、小島伊織、髙橋佳伸、髙山愛羅士
月橋唯奈、永野蓮、山﨑音央

【アドバイザー】

デザイン事務所オオタケコウスケ　代表　　大竹幸輔 氏
廃材再生師　　加治聖哉 氏

プロジェクト目標：長岡および周辺地域の活性化に寄与する
ゼミ対象地域：栃尾地域

寄与

地域活性化を定義
・人口の増加 → ・人口増のよくある条件
主要経済活動地域へのアクセスの良さ（主にベッドタウンとして）
福祉の充実（老後の暮らしやすさと、教育など子育てに強い地域）
※若者が流出しない地域づくりなども挙げられる
※U ターン、I ターンなど何らかのノウハウを持った若者の移住なども
・経済の活性化 → ・経済活性化のよくある条件
企業の誘致（工場や大規模商業施設の存在）
観光地化（個性があり競合が少なく、独自文化を発信できること）
数値化しやすいが実現が困難
大規模な予算が必要
比較的低予算で実施可能
→ 交流人口・滞留人口の増加による地域活性
ゼミの活動を考える基本理念となります

◇先輩の実績の引き継ぎ～前年度までのゼミ活動で築かれた成果の活用

・山古志養鯉組合との関係性
栃尾と山古志の地政学的な繋がりを周知する事で、地域の人々の歴史認識を深め、地域愛を深める。
他にはできない事業の一つであり、当ゼミの大きな武器となっているが、その分苦労も伴うため、過去のノウハウをしっかり引き継ぐシステムを構築する。

・フォトコンテストの作品
ヴァーチュアル町歩きが実現できる資産であり、現在の Web サイトのリニューアルは必須。
デザインを一新し、観光協会などのサイトと連携してもらう事で、観光事業に寄与するものへと成長。

→ 今年度以降の取り組み課題

◇今年度のプロジェクトの枠組みの整理

メンバー希望活動一覧

商品開発
そもそも開発と生産が可能であり、かつ需要が見込めるか。また需要を生み出すために、どのような活動が必要かを模索検討する。
商品として最低限のクオリティを実現できるか。
話題性や高付加価値を生み出す必要
・クラウドファウンディング
・NFT（非代替性トークン）の活用

町歩き系のイベントやツール開発
栃尾地域全体を網羅するか否かの議論が必要となる。事象が多すぎると狙いが絞れないケースが多く、どのように解決するかを要検討とする。
問題点を挙げ、解決への道筋と効果の測定を必須とする。

フード開発
あぶらげなど全国でもそこそこ有名な物産が存在している。しかしながら、実際は出尽くしている感もあり、別の視点からのバズりを意識したアイデアが必要。
美味しいのは当然。ストーリーと個性と見た目で魅力を＋。

トチオノアカリの糸繰枠ランプの商品化
→ トチオノアカリのブランディングに＋
→ トチオノアカリの受益構造に＋
→ イベント時の来訪者の買い物の楽しみ＋

技科大との連携により得られる効果
→ 技術者・研究者層の栃尾への注目度＋
・発信力→研究者の参加によるメディアの興味関心
・さらなる交流人口の増加

栃尾高校との連携
3 年間継続してきた地域教育システム構築のパイロット事業。高大連携・高大接続の体制づくりへの寄与。

高島幸成
ゼミナール

長岡市の小学生がプログラミングを継続的に学ぶための仕組み作り

【参加学生】 24 名(4 年生 12 名、3 年生 12 名)

4 年生 五十嵐麗藍、岡田尚輝、小川優作、清水優太郎
高橋侑希、土田侑真、中村恵理、中村元哉
韮澤晴菜、松下竜大、若井奈津、渡部さくら

3 年生 青柳達典、今田健、小林楓花、加藤桜子
小林直生、齋藤陽音、永井大貴、名川勇斗
村木凜人、山崎まある、寄藤龍輝、綿貫大治郎

【アドバイザー】
長岡市教育委員会学校教育課 副主幹兼指導主事 田中 博徳 氏
ながおか技術教育支援機構（テソナ） 理事長 高橋ゆたか 氏

1.はじめに

本ゼミの活動は長岡地域の平均所得向上を最終目標に、情報技術者志望の子供を増やすためのきっかけを作ることである。この長期的な目標を達成の為に図 1 に示すように、4～5 年の達成をめどにした中期目標、中期を達成するために単年度の短期目標を定めた。そこで今年度は図 2 に示すように 4 つの短期目標を実行するため、「募集チーム」「Web チーム」「アンケートチーム」の 3 つに分け活動を行った。

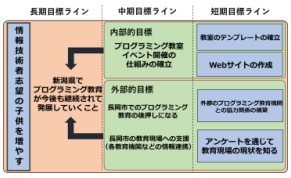


図 1 今年度の目標図

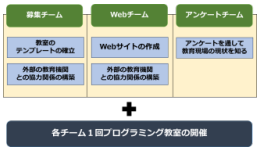


図 2 各チームの目標

2.募集チーム

募集チームは継続的で効率的な教室イベント開催を実現するため、参加者の募集やながおか技術教育支援機構 TESONA と共同で教室開催などを行った。参加者の募集のために子どもが参加を望むようなチラシを作製し、Web を利用して自動的に参加者の管理ができるシステムを開発するなど教室開催の運用面での実績をあげた。また、教室参加後に子供に継続的な学びを促すために保護者向けに情報教育の必要性を伝える資料作成なども行っている。さらに TESONA と共催で教室を実施し他組織との協力関係を構築し、協働の知見を得た。

3.Web チーム

昨年度の活動では、教室参加者の募集や情報伝達、教材の配布や参加後の継続的な学習資料配布などに大きな負担があった。そこで、Web チームは活動効率の向上を目的に Web の構築を行った。結果的に参加者への情報伝達がスムーズになり、参加者に事前準備をさせることで教室の内容を充実させることができた。

合わせて、学外の民間プログラミング教室に本ゼミの活動趣旨を伝えて協力を仰ぐ交渉活動も行った。結果的に FUCO、p.g.camp の 2 教室から賛同いただき、協力関係を作ることができた。

4.アンケートチーム

プログラミング教育の必修化に合わせて、小学校におけるプログラミング教育の問題点やゼミ活動で補助できる余地を明らかにするために、2021 年度より小学校教員を対象にアンケートを実施している。本年度は実施方法を改善し、回答率が約 30%向上した。分析結果は 2022 年 12 月 20 日に協力をいただいた長岡市公立小学校、及び長岡市教育委員会に提出した。

5.プログラミング教室

今年度は図 2 に示す各チームで 9/3、10/22、11/5 の 3 回の教室を開催した。9/3 は TESONA と共催で「最新技術の AI を使ったプログラミングを体験」をコンセプトに行った。10/22 はゼミ生のみで「楽しみながら学びプログラミングに興味を持ってもらう」をコンセプトに行った。11/5 もゼミ生のみで「IT 化や自動化の仕組みを身近なものを通して学ぶ」をコンセプトに行った。

図 4 実際に開催した教室の様子

6．今年度の成果 来年の目標

今年度は昨年度の反省を踏まえ、プログラミング教室を 3 回実施した他、新しい試みでもある web ページの作成や外部の教育機関との関係の構築で三つのプログラミング教室と関係が築けた。そのため、意義のある成果を出せたと考えられる。来年度は教室参加者の増加、アンケート結果に基づいた追跡調査、web サイトの有効活用を課題にしていきたい。

長岡大学

2022 年度 学生による地域活性化プログラム

広田秀樹
ゼミナール

グラスルーツグローバリゼーション
―草の根・地域からの人類一体化の推進―

【参加学生】 20 名(4 年生 9 名、3 年生 11 名)

4 年生 于有為、夏镜颜、黄舟、张娜、张苗苗
于涵、郭浩、侯建业、許書豪

3 年生 井口夏希、板垣新之介、井良沢優人、大川陸翔、押野見陽希
川島卓巳、小林拓生、瀬沼隼輔、曹博惠、曽我大樹
山口航輝

【アドバイザー】

green philosophy 代表 大出恭子 氏
フェアトレードショップら・なぷぅ オーナー 若井由佳子 氏

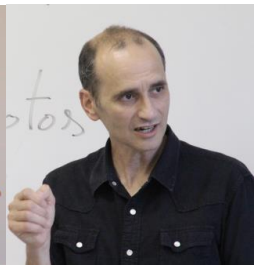
今年の活動コンセプト:「人類共生(Live together on the beautiful Earth)」

★世界からわたしたちの地域にきてくださった大切な方と交流 ＜地域国際交流活動＞

バングラデシュ・エラヒ氏

アメリカ・バーゲット氏

スペイン・マルティネス氏



＜地域国際交流活動＞を契機にした集中学習による国際教養（Global liberal arts）の拡大

Global liberal arts の地域への展開＜国際理解推進活動＞とユニセフへの応援

地域での国際理解推進活動

ユニセフ（UNICEF）への応援

長岡大学

2022 年度 学生による地域活性化プログラム

喬 雪氷
ゼミナール

和服で悠久山を盛り上げよう
―長大着物試着フェア―

【参加学生】 19 名(4 年生 6 名、3 年生 13 名)

4 年生 江口凜奈、小野加奈子、小野島陸
佐藤潤太、長谷川継介、村山翔
3 年生 渡辺奈々、五十嵐遥輝、大桃颯、解玉丹
金子美宥、珊瑚翔大、西山未来、廣田嵐之介
川上花、前田琉晴、矢部美愛、脇本拓斗、金巴蒂

【アドバイザー】
株式会社新潟デリカ 代表取締役副社長 佐藤 敦 氏
株式会社鶴亀社 代表取締役社長 小川祐蔵 氏

～取り組みの概要～

本ゼミナールでは、日本文化の継承、着物文化の振興と長岡東地区の地域活性化という3つのキーワードを主として、継続的なゼミ活動に取り組んでいる。今年度は、悠久山の麓にある長岡大学で、若者を対象とした着物の試着体験ができるイベントを企画・開催した。イベント企画書の作成、協賛企業の誘致、広報宣伝ポスター作成、対象者への宣伝活動、予算と経費の管理、当日の運営等の活動を通じて、ゼミ生の「課題発見力・計画立案力・協働力・統率力」等のコンピテンシー能力を高めることを目的とする。

外部講師による講義①：
「イベント企画の進め方」
協力企業：株式会社 ワイズ・クリエイション

外部講師による講義②：
「着物体験イベントの企画」
協力企業：株式会社 鶴亀社

外部講師による講義③：
「日本の伝統衣装について」
協力企業：株式会社 猪井

工場見学/活動報告
協力企業：株式会社 きものブレイン

悠久祭・着物試着フェア開催前

悠久祭
みどり繭関連商品展示コーナー

權 五景 ゼミナール　動画で新潟を再発見！

【参加学生】　6 名(4 年生 4 名、3 年生 2 名)

4 年生　青柳玲央、榎本一斗、長部康平、髙橋帝那

3 年生　大野力、高橋翔馬

【アドバイザー】

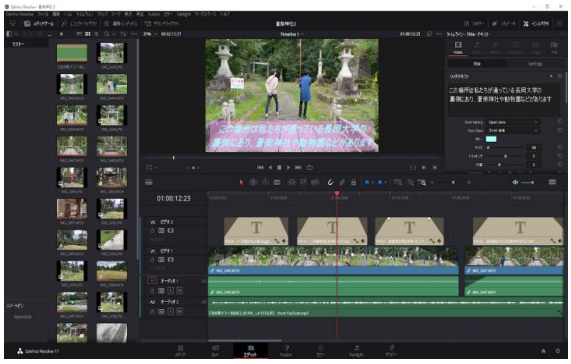
株式会社長谷川陶器　代表取締役　長谷川真 氏
長岡市観光・交流部 観光企画課　課長補佐　小林　隆 氏

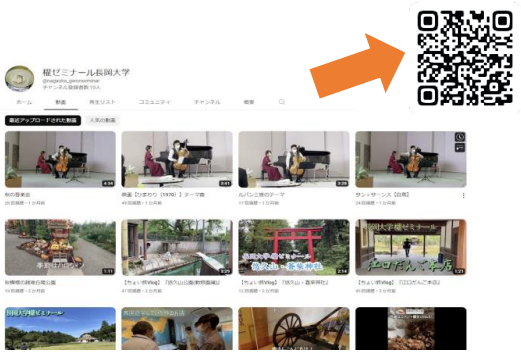
取り組み概要

前年度の「十分杯」から変わり、今年度は新潟にある名所を取り上げて、新潟の魅力を知っていただき、実際に足を運んでもらうことで地域活性化を図ることを目的として日々活動しています。

活動風景

新潟の名所を PR する動画の制作を中心に活動を行いました。私たちが知っていただきたいと思う名所を取り上げ取材し、編集を行いました。ゼミ生全員が動画編集ソフトの使い方を身につけ、各々の個性を活かした動画制作をしました。制作した動画は YouTube で順次公開してきました。





学校法人 中越学園
長岡大学

2022 年度 学生による地域活性化プログラム

栗井英大
ゼミナール

オープンファクトリーで長岡を活性化！

【参加学生】 20 名(4 年生 12 名、3 年生 8 名)

4 年生 石井優人、石山歩、梅澤駆、熊谷海斗、小海りこ
小林拓海、笹川彩花、高野可南太、田沢圭祐
永井滉大、長谷川響、馬場竜一

3 年生 加藤爽、金井竜希、新保舞人、田村優介
樋口冬哉、柳田亜希子、若月海憂、渡辺摂那

【アドバイザー】

株式会社アルモ 代表取締役社長 柴木 樹 氏
長岡市商工部産業支援課 工業振興担当課長補佐 五井篤也 氏

長岡市企業へのヒアリング

- 長岡市産業展示室(ハイブ長岡)
- 株式会社 トクサイ
- 株式会社 アルモ

↓

長岡市の製造業を学ぶため、産業展示室とアドバイザー企業からヒアリングを行い、長岡市の製造業について学習した。

実際のオープンファクトリーに参加

- ～職人探訪～十日町きもの GOTTAKU

↓

十日町市で開催されているオープンファクトリー「～職人探訪～十日町きもの GOTTAKU」に参加し、実際にどのように開催されているか見学した。

株式会社トクサイ様では出前授業を、株式会社アルモ様では初の工場見学を実施

株式会社トクサイ出前授業

長岡の子供たちに長岡の産業を知ってもらうため栖吉小学校で出前授業を実施。

株式会社トクサイの細線加工を施した糸を利用した釣りゲーム

株式会社トクサイをより知ってもらうためのクイズを実施。

株式会社アルモ工場見学会

普段見ることができない工場内と、株式会社アルモの技術を伝えようと考え作成。

企業 PR を兼ねた工場見学会参加者にわかりやすいオリジナル動画を作成

子供でも安全に体験することができる「簡単鋳造体験」と、アルミの特徴を体感する「ぐい呑み体験」を行った。

多くの人に長岡市の機械金属産業を知ってもらうことができ大成功！

目標：長岡市でオープンファクトリーの開催を！

工場見学とオープンファクトリーの違い

- 工場見学…内容が子供向けで小規模
- オープンファクトリー…内容が一般向けであり、工場見学よりも大規模

目標達成のための今後の課題

- 今後複数の長岡市企業との連携が必要
- オープンファクトリーは規模が大きいため大人数の参加者への対応
- 子供と一般人が同時に楽しめるような企画作り

参考資料１　「2022 年度学生による地域活性化プログラム成果発表会　次第」

学校法人 中越学園
長岡大学

「2022 年度学生による地域活性化プログラム成果発表会」

＜　次　第　＞

日　時：2022 年 12 月 3 日（土）13:00～17:15
会　場：ホテルニューオータニ長岡「ＮＣホール」

プログラム　　（司会　長岡大学准教授　村越 真紀）

13:00　「学生による地域活性化プログラム成果発表会」開会
13:05　開会挨拶　　長岡大学 学長　村山 光博
13:10　全体説明
13:15　発　　表　　※各取組の発表は 13 分間，質疑応答は 5 分間。

13:15～ 前　　半			
13:15	1	キャンプ・アウトドアをキーワードにした地域活性化への取り組み	坂井 一貴ゼミ
13:35	2	まちの駅魅力再発見プロジェクト	鯉江 康正ゼミ
13:55	3	新潟のフードビジネスにチャレンジ	百合岡 雅博ゼミ
14:15	4	長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る	生島 義英ゼミ
14:35	5	トチオノアカリ商品化によるにぎわい創出	石川 英樹ゼミ
14:55～ 休　　憩			
15:10～ 後　　半			
15:10	6	長岡市の小学生がプログラミングを継続的に学ぶための仕組み作り	高島 幸成ゼミ
15:30	7	グラスルーツグローバリゼーション ―草の根・地域からの人類一体化の推進―	広田 秀樹ゼミ
15:50	8	和服で悠久山を盛り上げよう　―長大着物試着フェア―	喬 雪氷ゼミ
16:10	9	動画で新潟を再発見！	權 五景ゼミ
16:30	10	オープンファクトリーで長岡を活性化！	栗井 英大ゼミ

16:50　総　　評　　グローカルマーケティング株式会社　代表取締役　今井 進太郎 氏
　　長岡市地方創生推進部政策企画課　　課長　　目黒　麻子　氏
17:10　閉　　会
17:10　写真撮影　　ゼミ学生、アドバイザー、担当教員（発表順に撮影）

参考資料２「社会人基礎力診断シート（学生用）」

※前期、後期ともオンラインで回答

2022年度社会人基礎力診断シート（第１回）

オンライン回答

学籍番号:　　氏名:

＊該当するレベルを囲み、得点と総得点を計算して下さい

社会人基礎力 ３大能力	社会人基礎力 １２能力要素	レベル１ ＜１点＞	レベル２ ＜２点＞	レベル３ ＜３点＞	レベル４ ＜４点＞	レベル５ ＜５点＞	得点
アクション （前に踏み出す力）	主体性 （物事に進んで取り組む力）	他人に何度も指示されてから物事に取り組む	他人に指示された物事に対しては取り組むが、すべきことを主体的にみつけようとしない	他人に指示されることもあるが、すべきことを主体的にみつけようとする	他人の指示を待つのではなく、主体的にすべきことをみつけられる	自分の状況を判断したうえですべきことをみつけ、率先してやりとげられる	
	働きかけ力 （他人に働きかけ巻き込む力）	困っていても他人に協力を求められない	親しい人には協力を求められるが、親しくない人には声をかけられない	親しい人にも親しくない人にも協力を求めて声をかけられる	協力して目標を達成するため周囲の人にその必要性を説明できる	協力して目標を達成するため周囲の人にその必要性を説明し、共に行動できる	
	実行力 （目的を設定し確実に行動する力）	目的・目標を決めずに行動することが多い	目的・目標は設定するが失敗を恐れて目標を低くしたり他人に任せたりすることがある	自分の能力に見合う目的・目標を設定できる	目的・目標達成のために何をすべきかを考え行動できる（やるべきことを書き出す、やるべきことの順序づけ等）	目的・目標に対し具体的なステップを念頭に置いて行動できる（どれくらい時間・費用がかかるか、失敗したときのリカバリー等）	
チームワーク （チームで働く力）	発信力 （自分の意見をわかりやすく伝える力）	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらおうと思えない	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらいたいと思うが、行動に移せない	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらうための行動がとれる	自分の意見をわかりやすく伝え、他人の理解や協力を得ることができる	言葉遣い、話の構成、資料を工夫し自分の意見をわかりやすく伝え他人の理解や協力を得ることができる	
	傾聴力 （相手の意見を丁寧に聴く力）	相手の話は聞くが、意識して丁寧に聴いているわけではない	相手の話を聴くための基本態度（姿勢、目線、相づち）がとれる	相手の表情や態度を読み取りながら、話を聴くことができる	相手の話を理解しようとする態度（質問・確認）がとれる	相手の話を理解しようとする態度（質問・確認）がとれ、一緒に考え意見等を言える	
	柔軟性 （意見の違いや立場の違いを理解する力）	自分の意見に反対されたり変更されたりすると抵抗する	反対意見でも相手のほうが優れていると思う場合は、自分の考えに固執しない	反対意見でも相手のほうが優れていると思う場合は、それを理解しようとする	周囲の優れた意見を取り入れ、自分の考えや行動を変えられる	周囲の多様な意見を積極的に取り入れ、一人で考えるよりも創造的な成果を出せる	
	状況把握力 （自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力）	自分は何をすれば周りに貢献できるかがわからない	自分の役割は理解しているが、周りに気を配れずひとりよがりになることがある	グループの中で自分がどんな役割をすればよいかを理解できる	グループの中で自分がどんな役割をすればよいかを理解し、行動できる	自分の役割を認識するとともに周囲の状況（人間関係、忙しさ等）に気を配り、物事を良い方向に進められる	
	規律性 （社会のルールや人との約束を守る力）	無断欠席・遅刻が多く、締め切りも守れない	相手に迷惑をかけない最低限の礼儀・ルールを理解しているが、守れないことがある	相手に迷惑をかけない礼儀・ルールを守れる	相手に迷惑をかけない礼儀・ルールを守り、他人を不快にさせない行動ができる	約束時間や提出物の期限をきちんと守れ、状況に応じて発言や行動を律することができる	
	ストレスコントロール （ストレスの発生源に対応する力）	失敗や困難に直面すると悩んだりパニックになる	失敗や困難に直面すると一人で思い悩む	ストレスを感じるのは一過性のことと考え重く受け止めない	ストレスの原因をみつけ自力でまたは他人の力を借りて取り除くことができる	失敗や困難に直面しても、ストレスを力に変えて解決策を模索できる	
シンキング （考え抜く力）	課題発見力 （現状を分析し目的や課題を明らかにする力）	他人から与えられる目的・課題をうのみにする	やっていることの目的・課題は何かを意識することがある	他人の意見・助言を得て、やっていることの目的・課題を発見できる	自分の力で、やっていることの目的・課題を発見できる	情報収集等を通じ現状を正しく分析し、それをふまえて目的・課題を明らかにできる	
	計画力 （課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力）	計画を立てずに行動することが多い	計画を立てて行動するが、見通しが甘く予定通りにならない	計画を立てて行動する	計画を立てて行動しつつ、適宜、計画を見直し予定通り物事を進められる	手順や方法の優先順位を決定し計画的に物事を進め、うまくいかなかったときの解決策も考えられる	
	創造力 （新しい価値を生み出す力）	新しいアイデア・解決方法を考えられない	新しいアイデア・解決方法を考えようと意識することがある	アイデア・解決方法は出すが、独創的ではなく前例を真似することがある	独創的なアイデア・解決方法を創り出そうとする	前例にとらわれず従来の常識や発想を転換し、独創的なアイデア・解決方法を創り出せる	

↓

総得点

参考資料３　「社会人基礎力診断シート（教員用）」

社会人基礎力診断シート（教員用）

ゼミ担当		学籍番号		学生名	

学生による地域活性化プログラムの取組において、この学生の各項目の力が年度初めと比較して伸びたかについて評価してください。該当する番号を右の評価欄にご記入ください。

	社会人基礎力の項目	評価
アクション力	【主体性】進んで取り組む力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	
	【働きかけ力】取組の実施にあたって他の人に働きかける力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	
	【実行力】取組を確実に実行できる力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	
シンキング力	【課題発見力】課題を明らかにする力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	
	【計画力】課題解決の準備をする力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	
	【創造力】新しいアイディアを出す力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	
チームワーク力	【発信力】自分の意見を相手に伝える力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	
	【傾聴力】相手の意見を聞く力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	
	【柔軟性】意見の違いなどを理解する力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	
	【情況判断力】周囲の人や物事との関係を良く理解する力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	
	【規律性】ルールや約束を守る力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	
	【ストレスコントロール力】ストレスをうまく解消する力が上昇したと思いますか。 １．上昇した　２．ほとんど変化がなかった　３．低下した	

2022 年度学生による地域活性化プログラム成果発表会

【　意見シート　】

2022 年 12 月 3 日（土）

本日の発表についてお聞かせください。この意見シートは各取組の優劣を判断するものではありませんので、忌憚のないご意見をお願いいたします。該当するものに〇をつけてご意見をご記入ください。ご協力よろしくお願い申し上げます。

〔1〕あなた様の所属を教えてください

1.アドバイザー	2.保護者	3．高校等教職員	4．NaDeC 関係者
5.本学の学生	6.本学教職員	7．その他（　　）	

〔2〕各ゼミの発表内容についてお聞きします（発表順）

①　坂井一貴ゼミ：キャンプ・アウトドアをキーワードにした地域活性化への取り組み

Q１　取組テーマ（タイトル）と内容は合致していましたか。 1．合致していた　2．あまり合致していなかった　3．合致していなかった
Q２　この取組は地域活性化に役立つと思いますか。 1．役立つ　2．どちらともいえない　3．役立たない
Q３　学生の取組として評価できると思いますか。 1．高く評価できる　2．評価できる 3．やや物足りない　4．あまり評価できない
Q４　発表の仕方についてどう感じましたか。 1．非常に優れていた　2．優れていた　3．やや問題あり　4．問題あり
Q５　取組の内容や発表に対するご意見をご自由にお書きください。

参考資料５　「学生による地域活性化プログラム」に関するアンケート調査

2022年度 学生による地域活性化プログラムアンケート

このアンケートは、学生の皆さんから「学生による地域活性化プログラム」について率直なご意見を伺い、これをもとに次年度以降の活動に向けた改善を目的として実施します。
なお、アンケートの集計結果は公表いたします。
また、アンケートの回答および結果は以下の点に注意し取り扱われるため、安心して回答してください。
・アンケートの回答が、成績に影響することはありません。また、この調査の目的以外で使用されることはありません。
・集計結果の公表にあたって個人が特定されることはありません。
・「学校法人中越学園個人情報保護に関する規程」に従って、厳正に管理します。

kyomu@std.nagaokauniv.ac.jp アカウントを切り替える

*必須

メールアドレス *

メールアドレス

学籍番号（半角で入力） *

回答を入力

名前 *

回答を入力

問１　所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行った後、地域への理解が高まりましたか。 *

- 1．高まった
- 2．どちらともいえない
- 3．高まっていない

問１で「３．高まっていない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的にご記入ください。

回答を入力

問２　地域活性化プログラムの取り組みは、地域の活性化に役立ったと思いますか。 *

- 1．役立った
- 2．どちらともいえない
- 3．役立っていない

問２で「３ 役立っていない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的にご記入ください。

回答を入力

問３　所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなた自身の社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。 *

- 1．上昇した
- 2．どちらともいえない
- 3．上昇していない

問３で「３．上昇していない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的にご記入ください。

回答を入力

問４　所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなた以外の他のメンバーを総合的に見て社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。 *

- 1．ほぼ全員が上昇した
- 2．上昇した学生と上昇していない学生が半々位
- 3．上昇していない学生が多い

問４で「３．上昇していない学生が多い」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的にご記入ください。

回答を入力

問５　地域活性化プログラム全体において、改善が必要と思われることなど、気づいた点がありましたら、ご自由にご記入ください。

回答を入力

回答のコピーを自分宛に送信する

送信　　フォームをクリア